

『恵水通信』は、県オリジナル品種「恵水」の旬の情報をお届けします。

「恵水」の満開日（園芸研究所）は4月19日で、平年より2日早い開花となりました。

さて、今回は、大玉高品質果実生産に向けた摘果のポイント、昨年令和元年産（市場出荷4年目）の生産・出荷状況等についてお伝えします。

## ● ● 品種本来の大玉生産で「恵水」の評価を高めましょう！ ● ●

「恵水」は品種本来の大玉果実（約600g程度）において糖度が安定して高くなり品質が優れます。400g以下の果実では、糖度が低かったり硬すぎたりする果実の発生割合が高まります。大玉生産の基本技術は「摘果」です。再度、方法を確認しましょう。

### 大玉生産の「摘果」ポイント

着果過多に注意！

摘果時期が遅れたり、着果量が多すぎると、「恵水」でも小玉果の発生が増加します。さらに「恵水」は、「幸水」のようにあまり急いで摘果すると、裂果を助長したり、果形が乱れるおそれがあります。**「急ぎすぎず、でも遅れず、果形をよく見て摘果」**を合言葉に摘果しましょう。

表1 「恵水」の摘果方法

摘果・着果	摘果時期	摘果方法の目安
予備摘果	満開後30～40日	1果そう1果
仕上げ摘果	満開後60日以内	3果そう1果
最終目標着果	満開後60日頃	<b>側枝（短果枝部分）1mあたり6果</b> ※成木やジョイント栽培で着果可能な樹冠が完成済みの場合、 「樹冠面積1㎡あたり10果」を超えないよう注意。

特に、「側枝（短果枝部分）1mあたり」の考え方は、下の図1を参考にして着果過多に注意しましょう（図1参照）。

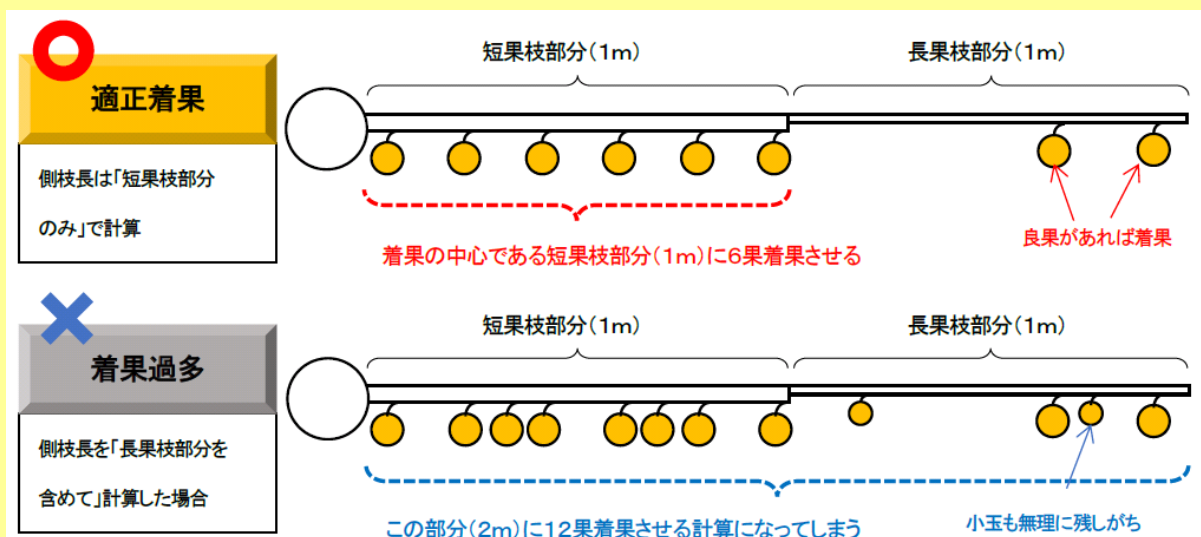


図1 満開後60日頃の着果量の目安（側枝を短果枝部分と長果枝部分で構成している場合）。

※模式的に各1mとした。）

## ● ● 「恵水」小玉果発生低減の修正摘果基準の紹介 ● ●

園芸研究所では、「恵水」の満開後 100 日頃からの果実横径が収穫時の果実横径と相関が高まることから、小玉果発生を低減させる摘果基準を作成しました（表 2）。着果過多が懸念される樹や、側枝密度が高い樹などで試用してみてください。なお、この基準は生育期後半に利用することになるため、摘果数を多くしすぎると収量は減少する可能性があること、階級別発生率（玉流れ）を高い精度で予測するためのものではなく、開花が極端に早いなど気候変動の大きい年は誤差が大きくなる可能性もあることにご注意ください。

表 2 「恵水」修正摘果基準（果実の平均横径mm）

満開後 日数	14玉 (350-400g)	12玉 (400-500g)	10玉 (500-550g)	9玉 (550-600g)	8玉 (600-650g)	7玉 (650-780g)	6玉 (780g以上)
90	55.9	58.4	63.6	66.2	68.8	71.3	78.1
100	68.3	70.4	74.7	76.8	78.9	81.0	86.5
110	76.9	79.1	83.5	85.6	87.8	90.0	95.7
120	82.5	84.9	89.8	92.2	94.6	97.0	103.3
130	86.7	89.4	94.8	97.4	100.1	102.8	109.8
収穫時	90.0	93.2	99.7	102.9	106.1	109.3	117.7

注1) 表の見方: 満開後100日に果実の平均横径が70.4mm以下の果実は、収穫時に400g未満になる確率が高い

注2) 果実の階級および基準重量は、茨城県青果物標準出荷規格「なし(新高・恵水等大玉系)」による。

## ● ● 「恵水」ジョイント栽培がおすすめ ● ●

園芸研究所では、「恵水」のジョイント仕立て栽培が早期多収に有効であることを確認しました（ジョイント実施後 3 年目に収量約 6t/10a）。新植やまとまった面積の改植の際に導入をご検討ください。なお、当技術は神奈川県の特許技術で、実施料の支払いが必要となりますのでご注意ください。



写真 ジョイント栽培導入(1年目)の様子  
(R1/12月定植→R2/3月接木→樹形完成)

## ● ● 県梨組合連合会，JAグループ茨城，県との連携について ● ●

県梨組合連合会，JAグループ茨城なし流通部会，県は、「恵水」の普及拡大に係る協議，情報共有を県下統一して進めるため，昨年度から合同会議を開催しています。この会議により，出荷規格の統一，合同研修会（R1.6.28），合同目揃え会（R1.8.29）が実現しました。

今年度は，新型コロナウイルスの関係で予定していた会議，研修会が見送られていますが，「恵水」の普及拡大と経営発展のため，引き続き連携を強化していきます。

## ● ● 令和元年産「恵水」の市場出荷（県統一販売）状況 ● ●

令和元年産「恵水」は，JAグループ茨城なし流通部会により，4年目の市場出荷が行われました（表 3）。

表 3 県統一販売による市場出荷実績

出荷年度	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)
出荷量 (t)	1.6	4.6	12.0	21.1

※ JAグループ茨城なし流通部会販売実績（H30～輸出分を含む）より

美味しいと喜ばれる「恵水」，儲かる「恵水」に育てていきましょう。

お願い

「恵水」の苗木を導入された皆様には，今後，県全体の生産状況把握等のため，各関係機関から，若木の生育状況や出荷数量見込等の問い合わせをさせていただく場合もあるかと思えます。ご理解・ご協力をお願いいたします。

『恵水通信』バックナンバーは，県農業総合センターホームページでご覧いただけます。→

